

JST

Japan Science and
Technology Agency

2023

国立研究開発法人
科学技術振興機構
2023年度 概要



2023年度 概要

投資家のみなさまへ

科学技術振興機構について（事業編）

令和5年12月

Japan Science and Technology Agency



■ JSTの事業内容

• 事業内容	-----	3
• 社会変革に資する研究開発戦略の立案と社会との共創	-----	4
• 社会変革に資する研究開発による新たな価値創造の推進	-----	5
• 新たな価値創造の源泉となる研究開発の推進	-----	8
• 多様な人材の支援・育成	-----	10
• 科学技術・イノベーション基盤の強化	-----	13

当機構の事業内容

JSTは世界トップレベルの研究開発を行うネットワーク型研究所として、未来共創イノベーションを先導します。



科学技術の振興を通じて、わが国の経済発展とSDGsの達成をはじめとした国際社会の持続的発展に貢献していくため、国内外の経済・社会の潮流を見定め、社会との対話・協働や客観データの分析を行い、科学に対する社会的期待や解決すべき社会課題を可視化し、研究開発戦略を立案するとともに、社会との共創による新たな価値の創造に向けた取り組みを推進します。

研究開発戦略センター (CRDS)

わが国の科学技術振興とイノベーション創出の先導役

研究開発戦略センター(CRDS)は、わが国の科学技術イノベーション政策に関する調査、分析、提案を中立的な立場で行う公的シンクタンクです。国内外の科学技術イノベーションや関連する社会および政策動向を俯瞰的に調査・分析するとともに、重要課題を抽出し、科学技術イノベーション政策や研究開発戦略に資する情報の提案およびその実現に向けた取り組みを行っています。



アジア・太平洋総合研究センター(APRC)

アジア・太平洋地域の科学技術とつなぐ

発展が著しいアジア・太平洋地域との科学技術協力を支える基盤を構築することを目的として、以下の事業を推進しています。日本とアジア・太平洋地域との交流と相互理解の促進に寄与し、科学技術協力の拡大深化に貢献していきます。



- 調査研究： アジア・太平洋地域における科学技術等について、幅広く情報収集・調査研究
- 情報発信： 最新の科学技術等に関する情報を発信するポータルサイトを運営
- 交流推進： アジア・太平洋地域の科学技術イノベーションとつなぐイベントの企画・実施

低炭素社会実現のための社会シナリオ研究事業

わが国の経済・社会の持続的発展を伴う、科学技術を基盤としたカーボンニュートラル社会の実現に貢献するため、望ましい社会の姿を描き、その実現に至る道筋や選択肢、戦略を示す社会シナリオ研究を推進します。

社会との対話・協働の深化

日本科学未来館

先端の科学技術と人をつなぐサイエンスミュージアム

ロボットや生命、宇宙や地球環境など、現在進行形で研究開発されている科学技術を展示やイベントを通して体験できる施設です。未来館の活動のなかで重要な役割を果たしているのは、科学技術の可能性やあり方について多様な人々とともに考える場をつくる科学コミュニケーターです。来館者が研究開発中の科学技術をいち早く体験し、その実証実験などを通して未来づくりに関わる“実験場”として、研究者や企業など多様なステークホルダーと連携しながら、世界に開かれた科学コミュニケーション拠点として活動しています。

社会技術研究開発センター(RISTEX)

社会が直面する問題を、自然科学と人文・社会科学の知識の活用により解決する研究開発プログラム

社会における具体的な問題や、科学技術の倫理的・法的・社会的課題(ELSI)に対して、研究者と社会の問題に取り組むステークホルダーが協働する研究開発を推進します。実社会の問題解決に役立つ成果の創出や、社会への実装を強く意識した取り組みにより、SDGsの達成や、科学技術と社会の適切な関係構築に貢献します。



科学技術・イノベーションと社会の関係深化

多様な主体との対話・協働(共創)の場を構築し、知の創出・融合等を通じた研究活動の推進や社会における科学技術リテラシーの向上に向けた取り組みを推進しています。

- 多様な主体が対話し、協働の芽を育む科学フォーラム
- セクターを超えた共創により研究開発をさらに発展
- 科学技術・イノベーションを用いて社会課題を解決する地域の優れた取り組みを表彰
- 科学技術情報をタイムリーかつわかりやすく発信

大学、産業界、地方自治体等をはじめとした様々な関係者の事業への参画を促進し、イノベーションを生み出す環境の形成を推進します。また、将来、広く社会を変革し得る研究開発と、その成果の社会実装と普及に向け、大学等発ベンチャーの創出・支援および知的財産の取得と活用に向けた支援等を行うとともに、より大胆な発想に基づく挑戦的な研究開発やグリーントランスフォーメーション（GX）に資する研究開発を推進します。

新たな価値の共創に向けた産学官連携・スタートアップ創出の推進

〈産学が連携した研究開発成果の展開〉

研究成果最適展開支援プログラム(A-STEP)

大学等の研究成果の実用化を目指す技術移転支援プログラム

- **トライアウト**

大学等の技術シーズが企業ニーズ(企業が抱える技術的課題)を達成できるかの確認・検証を支援します。



- **産学共同**

企業の視点の踏まえ、大学等の技術シーズの技術移転の可能性検証・実用性検証を支援します。

- **実装支援(返済型)**

大学等の研究成果(技術シーズ)の社会実装を目指すベンチャー企業等による実用化開発を支援します。

産学共同実用化開発事業(NexTEP)

大学等の技術シーズを利用した、ハイリスク・ハイインパクトな実用化開発を支援するプログラム

※2023年度公募を行う予定はありません。



〈共創の「場」の形成支援〉

共創の場形成支援プログラム(COI-NEXT)

知と人材が集積するイノベーション・エコシステムの構築を目指す

大学等を中心とし、民間企業等の多様な主体を巻き込んだ産学官共創により、SDGsに基づく拠点ビジョンの設定と拠点ビジョンの達成を目指す持続的な産学官連携拠点を形成し、知と人材が集積するイノベーション・エコシステムの構築を目指します。

国レベルやグローバルレベルの社会課題を捉えた「共創分野」と、代表機関らが立地する地域の社会課題を捉えた「地域共創分野」、国の重点戦略を捉えた「政策重点分野」の3分野においてプロジェクトを推進しています。



産学共創プラットフォーム共同研究推進プログラム(OPERA)

「組織」対「組織」の本格的な産学連携を推進するマッチングファンド

大学等と民間企業によるコンソーシアム型の連携により、非競争領域の産学共同研究、博士課程学生等の人材育成および産学連携システム改革を一体的に推進することで、「組織」対「組織」による本格的な産学連携を実現し、わが国のオープンイノベーションの本格的な駆動を図ります。



〈ベンチャー創出・支援〉

大学発新産業創出基金事業

大学等発スタートアップ創出力の強化に向けて、研究開発成果の事業化や海外での事業展開の可能性検証を視野に入れた研究開発を推進するとともに、地域の中核となる大学等を中心とした産学官共創による大学等発スタートアップ創出支援等を実施可能な環境の形成を推進します。

- **可能性検証**：大学等の研究成果について企業等との連携による実用化や起業に挑戦できる可能性を検証するための試験研究を行います。
- **プロジェクト推進型 起業実証支援**：大学等発スタートアップの起業前段階から、リスクは高いがポテンシャルの高い技術シーズに関して、事業戦略・知財戦略を構築しつつ、市場や出口を見据えて事業化を目指します。
- **ディープテック・スタートアップ国際展開プログラム (D-Global)**：大学等発の技術シーズを核にして、社会・経済に大きなインパクトを生み、国際展開を含め大きく事業成長するポテンシャルを有するディープテック・スタートアップの創出を目指します。
- **スタートアップ・エコシステム共創プログラム**：大学等発スタートアップの創出にポテンシャルのあるシーズを全国から引き出し、国際市場への展開を含め、大学等発スタートアップの創出に向けた取組について質量ともに充実させるとともに、大学等発スタートアップの継続的な創出を支える人材・知・資金が循環するエコシステムを、参画機関を拡充しながら形成する活動を支援します。

大学発新産業創出プログラム(START)

大学等の「知」が社会で活用されるスタートアップ・エコシステム確立を支援するプログラム

- プロジェクト推進型

起業実証支援：事業プロモーターのマネジメントのもと、大学等の技術シーズに関して、事業戦略・知財戦略等を構築し、成長する大学等発ベンチャー創出を目指す研究開発プロジェクトを推進します。

START
研究開発基金事業 大学発新産業創出プログラム

事業プロモーター支援：新事業育成に熟練した民間人材を事業プロモーターとして選定し、大学等における技術シーズの発掘と事業計画の策定および事業育成に係る活動を行います。

ビジネスモデル検証支援：アクセラレーターが研究者や事業化プロデューサー等に対して研修やメンタリングを実施しビジネスモデルアイデアを実践検証します。

SBIRフェーズ1支援：日本版SBIR制度を踏まえ、各府省等から社会ニーズ・政策課題をもとに提示された研究開発テーマに対して、大学等の研究者が起業や、中小企業への技術移転を目指すため、概念実証や実現可能性調査を行います。

- 大学・エコシステム推進型

スタートアップ・エコシステム形成支援：「スタートアップ・エコシステム拠点都市」の中核となる大学・機関を中心とした複数機関の連携によるプラットフォームにおいて、アントレプレナーシップを有する人材の育成とスタートアップ創出に一体的に取り組みます。

大学推進型（新規募集終了）：大学が学内の技術シーズを基にした大学発ベンチャーの創出に向けた研究開発課題の募集・選考、および起業活動支援プログラムの運営等を行います。

出資型新事業創出支援プログラム(SUCCESS)

JSTの研究開発成果を実用化するベンチャー企業を支援するプログラム

JSTの研究開発成果の実用化を目指すベンチャー企業に対し、出資や人的・技術的援助を行います。ベンチャー企業が行う事業活動を通じて、JSTの研究開発成果の実用化・社会還元を促進を目指します。



〈知財活用への支援〉

大学等の産学連携と知財マネジメントを促進

大学等の研究成果の権利化支援、特許相談、パッケージ化、企業へのライセンス、産学マッチング機会の提供および技術移転人材の育成等を実施しています。大学等における知的財産マネジメントの取り組み、技術移転および産学連携活動を総合的に支援することにより、イノベーション創出に寄与します。

大学等の知的財産マネジメントへの支援

大学等における知的財産基盤の強化

大学等の研究成果に関する外国特許の権利化支援を通じて、研究成果の幅広い活用を促進します。また、大学等における特許相談や技術移転に係わる目利き人材育成プログラム・技術移転人材実践研修を通じて、大学等のマネジメント力を醸成し、知的財産基盤の強化を図ります。

JST研究開発プログラムの知的財産マネジメント強化

大学等およびJSTの研究開発成果の展開・技術移転の促進

JST名義の特許（JSTの研究開発プログラムの成果により創出された特許やプログラム終了後に創出された発明を出願前譲受した集約特許）の権利化・実施許諾を行うとともに、大学等名義の特許ライセンス（開発あっせん）およびこれらの組み合わせにより、企業への技術移転を推進します。

知財サポート活動

JSTの研究開発プログラムのうち、イノベーション創出に向けて特許出願の必要性が高い研究開発課題を対象として、発明発掘や先行技術調査等の知財支援を実施します。

産学マッチングの機会提供

大学等保有特許の技術移転に関する各種支援サービス

産学マッチングイベントとして、大学等発技術の見本市「大学見本市～イノベーション・ジャパン」、企業関係者を対象とした大学等発技術の説明会「新技術説明会」を開催しています。



ムーンショット型研究開発の推進

内閣府が定めた人々を魅了する野心的な目標(ムーンショット目標)の達成に向け、従来技術の延長にない、より大胆な発想に基づく挑戦的な研究開発を推進するプログラム

未来社会を展望し、困難だが実現すれば大きなインパクトが期待される社会課題等を対象として、人々を魅了する野心的な目標(ムーンショット目標)の達成に向けて研究開発を実施します。

ここから、新・未来へ



ムーンショット型研究開発事業の運営について

わが国では9つのムーンショット目標が策定され、以下6つの目標を担当する研究推進法人のJSTは、目標達成に向けた研究開発を推進します。

- 目標1 : 2050年までに、人が身体、脳、空間、時間の制約から解放された社会を実現
- 目標2 : 2050年までに、超早期に疾患の予測・予防をすることができる社会を実現
- 目標3 : 2050年までに、AIとロボットの共進化により、自ら学習・行動し人と共生するロボットを実現
- 目標6 : 2050年までに、経済・産業・安全保障を飛躍的に発展させる誤り耐性型汎用量子コンピュータを実現
- 目標8 : 2050年までに、激甚化しつつある台風や豪雨を制御し極端風水害の脅威から解放された安全安心な社会を実現
- 目標9 : 2050年までに、こころの安らぎや活力を増大することで、精神的に豊かで躍動的な社会を実現

先端的な重要技術に係る研究開発の推進

経済安全保障重要技術育成プログラム

わが国が中長期的に国際社会において確固たる地位を確保し続ける上で不可欠な要素である先端的な重要技術について研究開発から実証・実用化までを迅速かつ機動的に推進するプログラム

わが国の経済安全保障を確保・強化する観点から先端的な重要技術を対象として、国が定める研究開発ビジョンおよび研究開発構想の実現に向けた研究開発を実施します。

研究開発ビジョン

わが国の経済安全保障を確保・強化する観点から先端的な重要技術について、国が研究開発ビジョンを提示します。

研究開発構想

研究開発ビジョンの達成に向けて、具体的な研究開発を示した研究開発構想を、内閣府、文部科学省、経済産業省が策定します。JSTは内閣府、文部科学省が策定した研究開発構想について、研究推進法人として研究開発の推進に係る業務を担います。



- プロジェクト型 : 重要技術の獲得を目指す比較的大規模な研究開発プロジェクト。
- 個別研究型 : 研究開発プロジェクトの高度化を図り得る、あるいは、単独で重要技術となり得る要素技術等に関する研究開発。

※個別研究型には、技術の特性等に応じて比較的中小規模のプロジェクト的な推進を図る研究開発も含まれる場合があります。

革新的GX技術創出に向けた研究開発の推進

革新的GX技術創出事業(GteX)

GX(グリーントランスフォーメーション) 実現への貢献を目指したチーム型研究

わが国の将来の産業成長と2050年カーボンニュートラルを達成する上で重要な技術領域において、分野や組織を横断した全国のトップレベルの研究者による連携体制を構築し、革新的な技術シーズの創出や人材育成を目指した研究開発を推進します。



イノベーションの源泉となる基礎研究をトップダウンで行うとともに、有望な研究開発課題を探索・発掘し、社会課題の解決を見据えた基礎研究から新たな価値創造へとつなぐ研究開発を推進します。

戦略的創造研究推進事業

国が定める戦略的な目標等の達成に向けた、革新的技術シーズの創出を目指す研究開発プログラム

CREST

科学技術イノベーションにつながる卓越した成果を生み出すネットワーク型研究(チーム型)

研究総括が定めた研究領域運営方針の下、研究総括が選んだ、わが国のトップ研究者が率いる複数のベストチームが、チームに参加する若手研究者を育成しながら、研究を推進します。



ERATO

卓越したリーダーによる独創的な研究

規模の大きな研究費をもとに既存の研究分野を超えた分野融合や新しいアプローチによって挑戦的な基礎研究を推進することで、今後の科学技術イノベーションの創出を先導する新しい科学技術の潮流の形成を促進し、戦略目標の達成に資することを目的としています。



さきがけ

科学技術イノベーションの源泉を生み出すネットワーク型研究(個人型)

研究総括が定めた研究領域運営方針の下、研究総括が選んだ若手研究者が、研究領域内および研究領域間で異分野の研究者ネットワークを形成しながら、若手ならではのチャレンジングな個人型研究を推進します。



ACT-X

独創的・挑戦的なアイデアを持つ若手研究者の「個の確立」を支援するネットワーク型研究(個人型)

研究総括および領域アドバイザーの助言・指導のもと、若手研究者が独自のアイデアからなる研究を進め、研究領域内外の異分野の研究者と相互触発し、研究者ネットワークを形成しながら研究者としての個を確立することを目指します。



先端的カーボンニュートラル技術開発 (ALCA-Next)

カーボンニュートラル実現に向けた技術シーズを創出する研究開発プログラム

カーボンニュートラルへの貢献という出口を明確に見据えつつ、個々の研究者の自由な発想に基づき、科学技術パラダイムを大きく転換するゲームチェンジングテクノロジー創出を目指します。



未来社会創造事業

科学技術により「社会・産業が望む新たな価値」を実現する研究開発プログラム

経済・社会的にインパクトのある目標を定め、基礎研究段階から実用化が可能かどうか見極められる段階(概念実証: POC)に至るまでの研究開発を実施します。



探索加速型

探索研究の公募により多くの斬新なアイデアを取り入れ、実現可能性を見極めつつ、本格研究へと段階的に研究開発を進めます。

大規模プロジェクト型

文部科学省が特定した将来の基盤技術となる「技術テーマ」に基づいて、その技術実証のための研究開発課題に集中的に投資します。

多様な専門性と価値観を備え、将来の新たな価値の創造に資する人材の支援・育成に向けた取り組みを行うことにより、持続的な科学技術・イノベーションの創出へ貢献します。

創発的研究の支援

創発的研究支援事業

特定の課題や短期目標を設定せず、多様性と融合によって破壊的イノベーションにつながるシーズの創出を目指す「創発的研究」を推進するプログラム

若手研究者による既存の枠組みにとらわれない自由で挑戦的・融合的な多様な研究を、研究者が研究に専念できる環境を確保しつつ長期的に支援します。採択後も、多様な研究者の交流や第一人者によるメンターにより知の創発を支援します。

研究機関が本事業に採択された研究者に対して実施した研究環境の改善状況を審査し、当該研究機関に対し追加支援を行います。



次世代研究者挑戦的研究プログラム

博士後期課程学生による挑戦的・融合的な研究を推進

博士後期課程学生による既存の枠組みにとらわれない自由で挑戦的・融合的な研究を支援します。研究の支援にあたっては、生活費相当額および研究費を支援し、博士後期課程学生が研究に専念できる環境を整備します。さらに、多様なキャリアパスへ進むことができる人材へと導く取り組みについても支援を行い、優秀な博士人材がさまざまなキャリアで活躍できるように研究力向上や研究者能力開発を促していきます。



科学技術イノベーション創出に向けた大学フェロースHIP創設事業
大学による博士後期課程学生の処遇向上とキャリアパスの確保の一体的な取り組みを支援

修士課程から博士後期課程に進学する優秀な人材を確保するため、将来のわが国の科学技術・イノベーション創出を担う博士後期課程学生の処遇向上とキャリアパスの支援を、全学的な戦略の下で一体として推進する大学への支援を実施します。



多様な人材の育成

科学技術分野の次代を担う人材の総合的な育成プログラム

初等中等教育段階から優れた資質や意欲を持つ児童生徒等を発掘し、その才能を伸ばすための一貫した取り組み、理数分野への関心・素養を高めるための取り組みを推進しています。

スーパーサイエンスハイスクール(SSH)支援

先進的な理数系教育を行う高等学校等の取り組みへの支援

スーパーサイエンスハイスクール (SSH) は文部科学省が指定する先進的な理数系教育に取り組む高等学校等で、全国で218校(2023年現在)が指定されています。理科・数学に重点を置いたカリキュラムの開発・実施、課題研究の推進、高大連携・接続、国際性の育成を重視し、創造性豊かな将来国際的に活躍する科学技術人材を育成しています。



国際科学技術コンテスト

科学の面白さと楽しさを体験できる中高生向けの科学コンテスト支援

数学・化学・生物学・物理・情報・地学・地理の7つの教科別国際科学オリンピックと、リジェネロン国際学生科学技術フェア (Regeneron ISEF) への代表生徒の派遣支援を通して、次世代の科学技術の担い手を育成しています。2023年7月には物理学と数学のオリンピック国際大会が日本で開催されました。



科学の甲子園・科学の甲子園ジュニア

中高生等を対象とした全国規模の科学コンテストの開催

科学好きな生徒の能力伸長と裾野拡大を目指し、47都道府県から選ばれた中学生・高校生等のチームが集い、理科・数学・情報等における複数分野の筆記競技や実技競技を通じて、科学の知識や活用力を競い合う大会を実施します。2023年度の科学の甲子園全国大会は茨城県つくば市で、科学の甲子園ジュニア全国大会は兵庫県姫路市で開催予定です。



グローバルサイエンスキャンパス(GSC)

将来グローバルに活躍する科学技術人材を育成するプログラム

卓越した意欲・能力を持つ高校生を対象に研究活動や国際的な活動を含む高度で実践的な育成を行うプログラムです。個に応じた才能育成に向けた取り組みや、受講生の多様性に応じた育成プランが組み込まれており、年間を通して実施されます。



ジュニアドクター育成塾

卓越した意欲・能力のある小中学生等のための人材育成プログラム

将来の科学技術イノベーションを牽引する傑出した人材の育成に向けて、高い意欲や突出した能力のある小学5年生から中学3年生を対象に、STEAM学習等を通じ、科学的思考力や論理的思考力、情報活用能力等、児童生徒の能力のさらなる伸長を目指すプログラムです。



次世代科学技術チャレンジプログラム

多様な科学技術人材を小中高一貫で育成するプログラム

理数系に優れた意欲・能力を持つ小学校高学年～高校生を対象に、最先端の探究活動やSTEAM教育、アントレプレナーシップ教育など高度で実践的な取り組みを通じて児童生徒の能力等をさらに伸長する機会を充実し、次代を担う多様な科学技術人材の育成を目指します。

女子中高生の理系進路選択支援プログラム

女子中高生の理工系分野への興味関心を向上させるプログラム

女子中高生の理工系分野に対する興味関心を高めるとともに、保護者・教員の理系進路選択への理解を深め、女子中高生が理工系分野へ進むことを促すことを目的に、科学技術分野で活躍する女性研究者・技術者・大学生等との交流機会の提供、シンポジウムや出前授業等の開催に加え、地域や企業等と連携した取り組みを実施する大学等を支援します。

多様な人材の育成

プログラムマネージャー(PM)の育成・活躍推進プログラム

挑戦的な研究開発プログラム等をプロデュースするPMに必要な能力の育成

大学、研究機関や企業等から公募・選抜された研修生に研修プログラムを提供します。PMに必要な知識・スキルを学び、研究開発プログラム等の構想を自ら提案する第1ステージと、提案した構想の一部やマネジメントを実践する第2ステージで構成された知識習得にとどまらない実践的プログラムです。また修了生のネットワーク化や活躍推進に向けた情報提供など、JSTが支援します。



研究公正推進事業

公正な研究活動の普及・啓発

ワークショップ開催や映像教材の開発などを通じた研究倫理教育の高度化支援、ポータルサイトの運営、研究機関・研究者からの相談に対する助言等を行っています。また、日本学術振興会、日本医療研究開発機構、新エネルギー・産業技術総合開発機構、生物系特定産業技術研究支援センターの各資金配分機関と連携を図り、公正な研究活動の普及・啓発に取り組みます。



ダイバーシティ推進

イノベーション創出の活性化に必要なダイバーシティの推進

科学技術イノベーションの創出に向けた経営戦略の重要な施策のひとつとして、ダイバーシティを推進しています。その一環として、優れた若手女性研究者像（ロールモデル）の顕在化を通じ、わが国の女性研究者の活躍の支援と、次世代の女性人材が科学技術を志す環境の醸成を進めるため、2つの女性研究者賞を実施しています。



1つ目は、持続的な社会と未来に貢献する優れた研究等を行っている女性研究者および、その活躍を推進している機関を対象とする、「輝く女性研究者賞（ジュン アシダ賞）」です。本賞は、デザイナーの故芦田淳氏が設立した芦田基金の協力によるもので、賞の名前の由来にもなっています。2019年度の創設以来、毎年公募選考を行い、すぐれた受賞者を表彰しています。

2つ目は、JSTと駐日ポーランド共和国大使館が、日本の女性研究者のより一層の活躍推進に貢献することを目的に、国際的に活躍が期待される若手女性研究者の取り組みを表彰する「羽ばたく女性研究者賞（マリア・スクウォドフスカ＝キュリー賞）」です。30歳台前半での功績が認められ、後にノーベル賞を受賞した偉大な女性研究者 マリア・スクウォドフスカ＝キュリーの名を冠した本制度でも、2021年の創設以来、世界に羽ばたく若手女性研究者を毎年表彰しています。

また、JST研究開発事業に参画する研究者を対象に、ライフイベント（出産・育児・介護）と研究開発の両立を支援する目的で、出産・子育て・介護支援制度を実施しています。



芦田氏の言葉とサインを彫り込んだ輝く女性研究者賞(ジュン アシダ賞)の賞牌(写真提供:(株)ジュン アシダ)



羽ばたく女性研究者賞(マリア・スクウォドフスカ＝キュリー賞)ポスター

科学技術・イノベーションの創出に必要不可欠な役割・機能を担っている情報基盤の強化を行い、多様な知を最大限に活用することにより、研究開発成果の最大化に貢献します。また国際共同研究や交流の促進により、社会変革に向けた研究開発の共通基盤を構築・強化します。

情報基盤の強化

研究開発活動を支える科学技術情報基盤の強化

研究開発に必要とされる科学技術情報の収集・体系化・利用の仕組みづくりなどを通じて、新しい知の発掘、イノベーション創出、課題解決への貢献を目指しています。また、情報をつなぎ、分野や業種の垣根を越えた情報収集を可能にする科学技術情報統合検索サービスや分析サービスなどを提供し、研究開発を支援します。



<p>新しい知を発掘し、イノベーションを加速するインフラ 公的機関・民間企業と連携したデータの収集・整理・蓄積・公開・提供</p>	<p>J-STAGE 文献(全文) 国内2,200機関以上が発行する3,800誌以上の学術雑誌を公開する電子ジャーナルプラットフォーム</p>	<p>J-STAGE Data 研究データ J-STAGE掲載記事の関連データを公開するリポジトリ</p>
<p>Jxiv 文献(プレプリント) 未発表の査読前原稿(プレプリント)をオープンアクセスで公開する、日本で初めての本格的なプレプリントサーバ</p>	<p>J-GLOBAL 文献・特許等 10種の科学技術情報相互にリンクした 10種類の科学技術情報を公開 文献：6,200万件以上 特許：1,500万件以上</p>	<p>有料 JDream III 文献・分析 高度なプロフェッショナル向け科学技術文献情報データベース 提供：(株)ジー・サーチ</p>
<p>データベースカタログ 生命科学系データベース 国内外2,500以上の生命科学系データベースの説明情報などを収録</p>	<p>Japan Link Center DOI 正会員数：約70機関、 準会員数：約2,970機関 DOI登録件数は1,040万件以上</p>	<p>GRANTS 研究課題 実施機関や事業の壁を越え研究課題を統合的に検索</p>
<p>researchmap 研究者 国内の460機関以上が利用しており約35万人の研究者情報を登録・公開</p>	<p>JREC-IN Portal 研究人材のキャリア支援 研究人材のためのキャリア支援ポータルサイトで約2.4万件/年の求人情報を掲載</p>	<p>JSTプロジェクトデータベース 研究課題 JSTが推進する研究課題情報を一元検索</p>

オープンサイエンスの促進

JSTのオープンサイエンス基本方針を改定し、査読済み論文の出版後原則12ヶ月以内の公開、論文エビデンスデータの公開を義務化しました(2022年4月)。また、関連機関と連携したJapan Open Science Summit (JOSS) の共催や、CHORUSなど海外機関と連携し、オープンサイエンスの推進に取り組んでいます。

J-STAGE

日本の学術ジャーナルを発信するオンラインプラットフォーム

J-STAGEは、JSTが運営する電子ジャーナルプラットフォームです。2,200以上の日本の学協会等が3,800誌以上の科学技術刊行物を発行し、日本の科学技術(人文科学・社会科学含む)情報の迅速な流通と国際情報発信力強化、オープンアクセスを推進しています。9割以上の記事が無料で閲覧できます。

Jxiv 日本初の本格的なプレプリントサーバ

Jxiv(ジェイカイク)は、未発表の査読前原稿をオープンアクセスで公開する、日本初の本格的なプレプリントサーバです。研究論文の迅速な公開と共有を通じて、研究成果の先取権取得の支援、研究開発の加速、国際的な学術コミュニティへの貢献、公共的な知識の構築を目的として、JSTが運営しています。

Jxivでは、自然科学、人文科学、社会科学、学際科学などあらゆる研究分野のプレプリントを日本語または英語で投稿・公開することができます。プレプリントの投稿、公開、閲覧は無料です。

researchmap

研究者による業績管理及び発信を支援するデータベース型研究者総覧

researchmap は、研究者による業績管理および発信を支援するデータベース型研究者総覧です。プロフィール、執筆論文等の研究業績情報の閲覧機能、研究者同士のコミュニケーションの促進、産学連携や共同研究の候補を見つけるためのコミュニティ機能等を提供し研究活動を総合的に支援します。

科学技術文献情報提供事業

科学技術の振興を図ることを目的として、国内外の科学技術情報の収集、整理、保管、提供、閲覧させる業務のうち、科学技術に関する論文その他の文献情報を抄録その他の容易に検索することができる形式で提供することを目的とする事業を実施しています。

文献情報データを整備し、インターネット等を活用して、研究者・技術者が利用しやすい形で提供を行い、研究情報基盤の充実を図っています。閣議決定「独立行政法人の事務・事業の見直しの基本方針」（平成22年12月）において、文献情報提供事業については民間事業者によりサービスを実施することとされ、平成24年度より公募で選定した民間事業者によるサービスを実施しています。

平成29年度までは課金検索を主としたサービスを提供していましたが、平成30年度からはオープンサイエンス・オープンイノベーションの潮流等、事業環境の変化を踏まえてサービスモデルを転換し、民間事業者の創意工夫により文献データを自由に活用した分析・可視化等の高付加価値なサービスを提供しています。

- 科学技術文献情報提供事業の会計について

当該事業については、昭和32年から一般会計出資金および産業投資特別会計出資金を原資として実施されており、自己収入（令和4年度：約6億円）をあげていますが、財務状況に関しては、資産108.6億円に対して、負債1.0億円、資本金および資本剰余金890.0億円であり、782.2億円が繰越欠損金として整理され累積しているところです（令和5年3月31日現在）。

この状況を踏まえ、経営改善計画に沿って繰越欠損金の着実な縮減を図りつつ事業を実施。平成20年度以降は国からの出資を受けず、自己収入のみで事業を実施しています。

研究人材キャリア情報活用支援事業



研究者・技術者の求職・求人、能力開発、情報収集支援ポータルサイト

科学技術イノベーション創出を担う高度人材（学生、研究者、技術者、研究支援者、教員、学芸員等）に向けて、求人情報・キャリア支援情報等をワンストップで提供します。産学官連携の下、情報面からキャリア開発を支援し、アカデミアに加えて民間企業の求人情報提供等にも取り組んでいます。

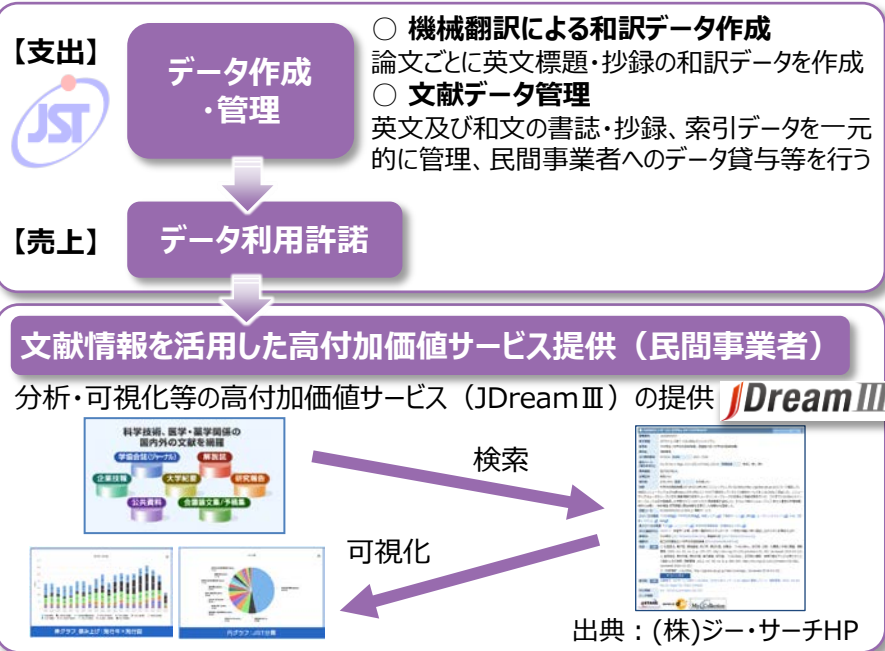
ライフサイエンスデータベース統合推進事業



生命科学分野データベースの統合的な利活用を促進

生命科学における新たな知識の創出を促進するため国内外のさまざまな機関と連携して、生命科学データベースに関する以下の活動の実施を通じたデータベースの統合化に取り組んでいます。

1. 中核的な研究データベースの整備
2. データの統合利用技術開発と利用開拓
3. 基盤的ウェブサービスの提供



国際戦略基盤の強化

グローバルな問題の解決を通して科学技術外交に貢献する研究開発プログラム

社会実装を視野に入れた開発途上国との国際共同研究や、省庁間合意に基づく研究分野の二国間・多国間共同研究課題を支援します。また各国のファンディング機関長による知見共有・連携を推進します。

地球規模課題対応国際科学技術協カプログラム(SATREPS) ODAと連携して地球規模課題の解決に貢献する国際共同研究プログラム

開発途上国のニーズをもとに、地球規模課題の解決や科学技術水準の向上につながる新たな知見・技術の獲得と社会実装を目指す国際共同研究課題を募集します。SDGsの達成に向け、国際協力機構（JICA）と連携して支援を行います。

SATREPS

戦略的国際共同研究プログラム(SICORP) 協力相手国等との省庁間合意による国際共同研究を推進する研究開発プログラム

省庁間合意に基づいて設定した研究分野において、相手国・地域のファンディング機関と連携しながら、イコールパートナーシップによる、日本の科学技術力の強化につながる国際共同研究課題を募集・支援します。

SICORP

AJ-CORE (Africa-Japan Collaborative Research)

日本-南アフリカを核とする3カ国以上の日・アフリカ多国間共同研究プログラム

AJ-COREは、日本-南アフリカを核とする3カ国以上の日・アフリカ多国間共同研究プログラムです。日本側はJST、南アフリカ側はNational Research Foundation (NRF)が支援します。日本・南アフリカに加え、その他のアフリカ諸国の研究者がコンソーシアムに参加し、地域課題解決に資する協力分野において協働します。コンソーシアムには自然科学者のみならず人文・社会科学者、企業・NGO・市民などの多様なステークホルダーも参加を推奨し、社会実装を支援します。



e-ASIA JRP

イコールパートナーシップでアジア地域共通の課題解決を目指す

アジア地域において科学技術分野の研究交流を加速することにより研究開発力を強化するとともに、アジア地域が共通して抱える課題の開発を目指します。相手国ファンディング機関と連携しながらイコールパートナーシップにより、材料（ナノテクノロジー）・代替エネルギー・農業（食料）・防災・環境（気候変動、海洋科学）・イノベーションのための先端融合の研究分野で多国間力を推進します。



EIG CONCERT-Japan

日本と欧州諸国との間の科学技術協力関係を発展させる

科学技術イノベーション分野における日本と欧州諸国による共同公募を中心とした協力活動を行う多国間プログラムで、社会のための科学の発展と日欧間のネットワーク強化を目指します。EUの研究・技術開発フレームワーク・プログラム（FP7）における国際協力活動プロジェクトCONCERT-Japanの後継として2015年に設立されました。



国際緊急共同研究・調査支援プログラム（J-RAPID）

大災害発生直後の研究・調査で得られた教訓を被災地の復興と将来の防災へ役立てる

J-RAPIDは、自然災害や人的災害など不測の事象が発生し、データの取得、問題の解決のために緊急に研究・調査を実施する必要がある場合に、機動的にその活動を支援することを目的としています。国などが本格的な研究・調査体制を整える前に、研究機関と協働して迅速に初動的な研究・調査を支援することにより、本格研究・調査への「橋渡し」としての役割を担っています。



Belmont Forum

世界各国が結集した地球環境変動研究への支援

地球環境変動研究へのファンディングを行う世界の主要先進国・新興国のファンディング機関の集まりであり、国際的な資金・研究者を動員し、連携することにより、人類社会の持続可能性を阻む重大な障害を取り除くために必要とする環境関連の研究を加速させ、SDGsへ貢献することを目的として、フューチャーアース・イニシアティブとも連携しています。

グローバルな研究開発活動を支える基盤の構築

科学技術外交の展開、グローバルサークルへ参画し、主導していくことにより、科学技術に関する情報の積極的な海外発信、諸外国の情報の収集、外国人研究者の受入れ環境の整備等、国際科学技術協力を推進するための基盤の強化を図ります。

さくらサイエンスプログラム（SSP）

未来を切り拓く青少年の科学技術国際交流を推進

本事業では、科学技術分野における日本と海外の青少年の国際交流を推進しています。招へい対象をすべての国・地域とし、自然科学、人文・社会科学をテーマとした交流計画を持つ機関への支援を行うとともに、JST自らが企画する活動を実施しています。



一般公募プログラムでは大学等の日本の機関が海外の若者を日本に招へいし、科学技術体験、共同研究、科学技術研修を行うプログラムの国際交流計画を公募し、実施経費をJSTが支援します。JSTが企画するプログラムでは、世界と日本の高校生が交流し、最先端の科学技術に触れる機会を提供するハイスクールプログラムの他、行政関係者を対象にしたプログラムも実施しています。

2014年の事業開始以来、61カ国・地域から35,000人以上の優秀な若者が来日し、そのうち約7%がプログラム終了後に学術や就業を目的とした再来日を果たして活躍しています。

日本と海外の教育・研究機関間の継続的連携・協力・交流、国際的頭脳循環の促進を目的として、日本および世界の科学技術・イノベーションの発展へ寄与することを目指します。

先端国際共同研究基盤の強化

先端国際共同研究推進事業（ASPIRE）

最先端研究における国際頭脳循環と国際共同研究の促進

国家の重点分野を対象として、わが国で先端を走る研究者・研究室と、世界トップレベルの研究者・研究室との共同研究や若手人材交流を支援します。本事業を通してわが国が中核に位置づけられる国際研究ネットワークを構築し、世界の優秀な人材を引きつけることを目指します。

グローバル・スタートアップ・キャンパス(GSUC)

ディープテック分野に特化した研究機能とスタートアップ・インキュベーション機能を兼ね備え、海外のトップ大学やベンチャーキャピタル等とも連携しながら、世界標準のビジネスを生み出すエコシステムの形成を目指します。特に海外大学による連携のもと、基礎研究からスタートアップを創出する活動を行うための中核となるフラッグシップ拠点を整備する事業が始まっています。

- 本資料は、投資家の皆さまへの情報提供のみを目的としたものであり、債券の募集、売出、販売などの勧誘を目的としたものではありません。
- 債券のご投資判断にあたりましては、当該債券の発行にあたり作成された債券内容説明書など、入手可能な直近の情報を必ずご確認ください、皆さまご自身の責任でご判断くださいますようお願い申し上げます。



シンボルマークについて

JSTの文字を囲む楕円とその上の赤い丸は、太陽系と地球のようなマクロの視点と、電子と原子核のようなミクロの視点をイメージしています。その中心にJSTがあり、ミクロからマクロまで、あらゆる視点で科学技術を振興するJSTの取り組みをシンボライズしています。また、赤い丸には同時に、旭日のごとく、天にのぼるように勢い盛んに未来に向かって成長を続けるJSTの姿をイメージしています。

お問い合わせ先

国立研究開発法人科学技術振興機構 経理部経理課
埼玉県川口市本町4-1-8 川口センタービル
T E L : 048-226-5613
F A X : 048-226-5652
U R L : <https://www.jst.go.jp/>